

平成20年度病虫害発生予報第7号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生動向についての予察情報及び病虫害防除に関する栽培管理について解説します。

病虫害防除の主な留意点

- ・ 全国的には、6月中旬以降高温、小雨となったこともあり、病害について、特に問題となる発生は見られていません。しかし、現在、病害の発生が少ない作物でも、今後、大雨や日照不足、台風などの影響により、病害が多発する場合がありますので、気象状況に留意して、防除対策を行ってください。
- ・ 一方、害虫については、6月中旬以降の天候が害虫の発生に好適な条件（高温・小雨）となったことから、水稻、大豆、果樹のカメムシ類、果樹及び野菜類のアザミウマ類及びハダニ類、野菜類・花き類に広く被害を及ぼすタバコガ類及びハスモンヨトウなどの発生が多くなっています。
- ・ 今後、効率的かつ効果的な病虫害防除を行うため、作物の生育状況、気象予報に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報を活用して、適切な病虫害防除を行ってください。
- ・ なお、薬剤による防除を実施する場合には、病虫害が薬剤への抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けるとともに、飛散対策を講じてください。

用語の解説

1. 【発生量（程度）】

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

2. 【地域】

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 甲信：山梨県、長野県

- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

- ・ 沖縄：沖縄県

【稲】

（紋枯病）

- ・ 紋枯病は、高温・多湿が続くと発生が助長されます。6月中旬以降、全国的に気温が高く推移していることから、本病の発生は、普通期水稻で北関東、北陸の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。なお、1か月予報では気温は高いとされており、今後の発生は、南東北、関東、北陸及び九州の一部で「やや多い」と予想されます。

（斑点米カメムシ類）

- ・ 斑点米カメムシ類の発生は、全国的に多い傾向にあり、前回の予報発表（8月7日）以降、9月2日までに5県から5件の「注意報」が発表されています。
- ・ 水田内のカメムシに薬剤防除を行う場合は、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報を参考にしてください。
- ・ なお、出穂期以降、水田畦畔や休耕田でカメムシが生息する状態で草刈りをすると水田内へカメムシを追い込むこととなるので、草刈りを行う時は注意してください。

【大豆】

- ・ 吸実性カメムシ類の発生は、近畿及び北九州の一部で「やや多い」となっています。また、今後の発生は、関東以西の広い地域で平年より発生が多くなると予想されます。
- ・ マメシンクイガの発生は、北海道で「多い」、北東北の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの害虫は、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報を参考に、適期防除を実施してください。

- ・ ハスモンヨトウの発生は、北関東の一部で「多い」、四国及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。ハスモンヨトウの若齢幼虫は集団で葉裏を食害し、白変葉（かすり・レース状の葉）を生じさせます。白変葉が認められた場合には、薬剤散布を実施してください。

【果樹】

（果樹共通）

- ・ 果樹カメムシ類の発生は、北関東、東海、近畿及び中国の一部で「やや多い」、四国の一部で「多い」となっています。また、今後の発生は、関東以西の広い地域で平年よりも発生が多くなると予想されます。例年カメムシ類の被害が多い園地や、山林に隣接した園地では、果樹園の観察をきめ細かく行い、飛来があった場合、初期からの防除を徹底するよう心掛けてください。
- ・ なお、果樹においては、多くの作物で収穫期を迎えています。薬剤散布を実施する場合には、農薬の使用基準を遵守し、周辺への飛散低減対策を講ずるとともに、適時適切な散布に心がけて、実施してください。
- ・ また、収穫を終えている作物・地域でも、次年度に向けて引き続き、適切な防除を行ってください。

（かんきつ）

- ・ かいよう病の発生は、南関東、四国及び北九州の一部で「やや多い」となっています。また、今後の発生は、南関東の一部で「やや多い」と予想されます。伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。特に、本病は連続降雨及び強風雨により発生が助長されるので、台風が予想される場合は、予防的に防除を実施してください。
- ・ そうか病の発生は、近畿及び南九州の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。今後の発生は、全国的に平年以下と予想されます。しかし、既に発生が見られる園地では、伝染防止のため、発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。
- ・ 黒点病の発生は、九州の一部で「やや多い」となっています。また、今後の発生は、九州の一部で「多い」又は「やや多い」と予想されます。伝染防止のため、枯れ枝は除去し、降雨の状況に応じて適切に薬剤散布を実施してください。
- ・ チャノキイロアザミウマの発生は、全国的に平年並以下となっています。また、今後の発生は、南関東及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤の散布を実施してください。
- ・ ミカンハダニの発生は、中国及び九州の一部で「やや多い」となっています。また、今後の発生は、南関東、中国及び四国の一部で「やや多い」、九州の広い地域で「多い」又は「やや多い」と予想されるので、発生に応じて薬剤を散布してください。

（りんご）

- ・ 斑点落葉病の発生は、南東北及び北関東の一部で「やや多い」なっています。また、今後の発生は、北東北及び北関東の一部で「やや多い」と予想されます。発生が見られる園地では、降雨の状況や気象状況に注意して薬剤による防除を行って下さい。

- ・ ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ等のシンクイムシ類の発生は、全国的に平年以下となっています。なお、今後の発生は、南東北の一部で「やや多い」ほかは、平年以下と予想されます。
- ・ ナミハダニ、リングハダニ等のハダニ類の発生は、北東北、甲信及び北陸の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの害虫は、地域の発生状況に応じて防除を行ってください。

(なし)

- ・ 黒星病の発生は、北関東の一部で「多い」、南東北、南関東、東海、近畿、中国、四国及び九州の一部で「やや多い」となっています。また、今後の発生は、南東北の一部で「多い」、南関東、近畿及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。発生状況に注意して適期に薬剤を散布してください。また、発病部位は伝染源となるので、早期に除去し、適切に処分してください。本病は、降雨が続くと感染が拡大するので、散布間隔が開き過ぎないように薬剤を散布してください。
- ・ 黒斑病の発生は、全国的に平年以下となっています。また、今後の発生も平年以下と予想されます。発生状況に注意して適期に薬剤を散布してください。また、発病部位は伝染源となるので、早期に除去し、適切に処分してください。
- ・ ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ等のシンクイムシ類の発生は、関東、東海、中国及び北九州の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、関東の一部で「多い」又は「やや多い」、東北、東海、中国及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ ハダニ類の発生は、南関東、北陸及び中国の一部で「多い」、北東北、北関東、四国及び南九州の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、南関東の一部及び北陸で「多い」、東北及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの害虫は、地域の発生状況に応じて防除を行ってください。

(もも)

- ・ せん孔細菌病の発生は、甲信の一部で「やや多い」ほかは平年以下となっています。なお、今後の発生も全国的に平年以下と予想されます。罹病枝の除去を確実に行ってください。本年発生が見られた園地では、次期作の対策として、収穫後、秋の時期の感染を抑えるための防除を行って下さい。

(ぶどう)

- ・ 晩腐病の発生は、甲信の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、北関東及び甲信の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ ベと病の発生は、甲信の一部で「やや多い」、北九州の一部で「多い」又は「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、北関東の一部で「多い」、甲信及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの病害は降雨により発生が助長されるので、天候に注意して適期の防除を行って下さい。

(かき)

- ・ 炭そ病の発生は、全国的に平年以下となっており、また、今後の発生も平年以下と予想されます。

- ・ うどんこ病の発生は、近畿の一部で「やや多い」ほかは、平年以下の発生ととなっています。なお、今後の発生は、近畿及び四国の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの病害については、果樹園の観察をきめ細かく行い、発病枝や被害果実の除去を行うとともに適期に薬剤散布を実施してください。

【茶】

- ・ 炭そ病の発生は、全国的に平年以下となっています。また、今後の発生も全国的に平年以下と予想されます。発生に応じて薬剤を散布してください。
- ・ クワシロカイガラムシの発生は、近畿の一部で「やや多い」ほかは平年以下となっています。なお、今後の発生は、近畿の一部で「やや多い」と予想されます。ふ化幼虫の発生状況を観察し、病虫害防除所等が発表する情報を参考に、ふ化最盛期に薬剤散布を実施してください。
- ・ チャノコカクモンハマキの発生は、近畿及び北九州の一部で「やや多い」となっており、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、北九州の一部で「やや多い」と予想されます。チャハマキの発生は、全国的に平年以下となっており、今後の発生は、南関東の一部で「やや多い」と予想されます。これらの害虫は、地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況に応じて、適期に防除してください。
- ・ チャノホソガの発生は、全国的に平年以下となっており、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、近畿の一部で「やや多い」と予想されます。チャノキイロアザミウマの発生は、北九州の一部で「多い」となっており、今後の発生は、南関東及び南九州の一部で「やや多い」、近畿及び北九州の一部で「多い」又は「やや多い」と予想されます。チャノミドリヒメヨコバイの発生は、南関東及び東海の一部で「多い」、北九州の一部で「やや多い」となっており、今後の発生は、南関東及び南九州の一部で「多い」又は「やや多い」、近畿及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの害虫が多く発生している茶園では、萌芽期に薬剤による防除を行ってください。

【野菜・花き類】

- ・ 6月中旬以降、天候が高温・小雨となったことから、病害の発生は少なくなっていますが、一方、害虫の発生が多くなっています。
- ・ 野菜類・花き類に広く被害を及ぼすタバコガ類及びハスモンヨトウ並びにアブラナ科野菜のハイマダラノメイガは、高温傾向で推移した関東以西の広い地域で発生が多くなっています。9月以降も、全国的に高温傾向が予想されているため、引き続き発生に注意して下さい。タバコガ類の幼虫は果菜類の果実や葉菜類の結球部に、また、ハイマダラノメイガの幼虫は芯部に食入すると防除が困難となるので、都道府県病虫害防除所から発表されるフェロモントラップの捕殺数や予察圃場での発生状況に関する情報を参考に、若齢期を重点とした適期防除を行ってください。
- ・ 罹病葉や罹病果は、病害の伝染源となるので、施設及び圃場外に除去し、確実に処分してください。

- ・ 虫媒性ウイルス病の防除対策では、病原ウイルスを媒介するアブラムシ類、コナジラミ類及びアザミウマ類の発生抑制は、効果的であり重要です。夏秋栽培から冬春栽培へ移行する施設栽培において、栽培終期を迎えた施設では、これらの害虫（保毒虫）の野外への飛び出しを防ぐため、施設開口部に防虫ネットを設置し、栽培終了後は施設の蒸し込み処理等を行い、作物残渣は生存虫を死滅させてから搬出してください。
- ・ また、次作（冬春栽培）の育苗、植付けにあたっては、前作で発生した害虫（保毒虫）を引き継がないよう、施設内及び周辺の雑草を除草してこれら害虫の発生源を除去し、施設開口部に防虫ネットを設置して、害虫の発生及び侵入防止対策を行ってください。
- ・ なお、これら害虫の発生源となる施設内及び周辺の雑草は、定期的に除草するように努めてください。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病虫害及び対象地域

作物名／病虫害名	発生が多い地域	発生やや多い地域
トマト		
黄化葉巻病	――	南関東、四国
コナジラミ類	――	南東北、北関東、北九州
なす		
アザミウマ類	北関東	北陸、四国
コナジラミ類	――	北関東
アブラムシ類	――	南関東、近畿
ハダニ類	四国	南関東
ピーマン		
アザミウマ類	――	北関東、北陸
きゅうり		
べと病	――	北東北、南関東、南九州
アザミウマ類	――	北関東、北陸
アブラムシ類	――	南関東、近畿
いちご		
うどんこ病	――	北関東、九州
炭そ病	――	南関東、四国
ハダニ類	――	北関東、九州
ねぎ		
さび病	――	北東北、北陸
黒斑病	――	北東北

軟腐病	南九州	北陸、四国
葉枯病	――	北東北
ネギアザミウマ	東北、関東、北陸	近畿、北九州
ネギハモグリバエ	南関東、四国	北東北、北陸
シロイチモジヨトウ	――	北関東、東海
アブラナ科（キャベツ等）		
ハイマダラノメイガ	南関東	東海、北陸、近畿
ハスモンヨトウ	――	南関東、北陸
きく		
ハダニ類	北関東、四国、南九州	北陸
オオタバコガ	――	東海、近畿

前回（平成 20 年 8 月 7 日）以降、各都道府県が発表している発生予察情報は下記のとおりです。

- ・ 注意報（前回未発表）

発表月日	県名	作物名	病虫害名
8 月 7 日	兵庫	アブラナ科野菜（キャベツ、だいこん、ブロッコリー等）	ハイマダラノメイガ

- ・ 注意報

発表月日	県名	作物名	病虫害名
8 月 8 日	愛知	水稻	斑点米カメムシ類
8 月 8 日	山形	水稻	斑点米カメムシ類
8 月 8 日	岩手	水稻	斑点米カメムシ類
8 月 13 日	栃木	水稻（早植栽培）	斑点米カメムシ類
8 月 15 日	北海道	大豆	マメシンクイガ
8 月 21 日	岐阜	果樹類（かき、なし、りんご、みかん、もも）	果樹カメムシ類
8 月 22 日	和歌山	かき	果樹カメムシ類
8 月 25 日	福岡	茶	カンザワハダニ
8 月 26 日	高知	水稻（普通期）	斑点米カメムシ類
8 月 27 日	熊本	かんきつ類、かき、なし	果樹カメムシ類

8月28日	神奈川	アブラナ科野菜（キャベツ、ブロッコリー、だいこん等）	ハイマダラノメイガ
8月28日	福岡	果樹全般（かき、かんきつ、なし等）	果樹カメムシ類
9月1日	奈良	かき、なし、みかん	果樹カメムシ類
9月1日	沖縄	水稻（二期作）	コブノメイガ
9月2日	鹿児島	かんきつ、なし、かき	果樹カメムシ類
9月3日	北海道	てんさい	褐斑病

・ 特殊報

発表月日	県名	作物名	病害虫名
8月8日	千葉	マンゴー	マンゴーツメハダニ
8月27日	愛知 岐阜※	とうがらし	トウガラシ・ピーマンモザイク病 (TMGMV) ※平成20年9月5日訂正
8月28日	福岡	メロン	メロン退緑黄化病（仮称）(CCYV)
9月1日	福島	マメ科植物	アルファルファタコゾウムシ
9月1日	福島	ひまわり	アワダチソウグンバイ

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課
 担当者：防除班大岡，城島
 代表：03-3502-8111（内線 4562）
 ダイヤルイン：03-3502-3382
 FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL
<http://www.maff.go.jp/j/press/>